

授業科目名 <英訳>	文化行為論 B Cultursl practices B				担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 准教授 石井 美保					
配当 学年	3,4回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2015・ 後期	曜時限	月2	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
<b>【授業の概要・目的】</b>											
<p>文化行為論は、人々の日常的実践に焦点を当てた文化・社会人類学である。この講義では、各自が関心をもつ文化人類学のテーマについて受講者が発表を行い、参加者全員でのディスカッションと、講師による解説を中心に授業を進める。</p> <p>受講者は授業を通して人類学的なテーマに親しむだけでなく、発表とディスカッションを通して民族誌的テキストの読解能力やフィールドワークの方法等を積極的に身につけることが期待される。</p>											
<b>【到達目標】</b>											
<p>現代人類学の重要なテーマを学習するとともに、発表とディスカッションの場で、それぞれの受講生の問題関心に沿ったテーマを積極的・多角的に探求することを通して、日常を相対化する視点を身につけることができる。</p> <p>また、この授業では受講生同士がディスカッションを通して互いの問題関心や意見を知り、同世代の鋭い思考や行動力・探究力に触れることで、互いに刺激し合うことを目標としている。そのため、ゼミでは受講生の積極的な発言を期待する。</p>											
<b>【授業計画と内容】</b>											
<p>最初の複数回の授業では、講師が人類学的思考の基礎とフィールドワークの方法論を概説する。以降の授業では、受講者がそれぞれ（場合によっては複数で）テーマを定めて研究発表とディスカッションを行う。</p> <p>参考までに、2014年度の発表テーマ（受講生が取り上げた民族誌的テキストのテーマ）の一部を以下に挙げる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「近代的個人」と憑依現象</li> <li>・伝統の創造</li> <li>・シャマニズムとパースペクティヴィズム</li> <li>・国際結婚とアイデンティティ形成</li> <li>・アフリカ農村におけるモノのやりとりと関係の可視化</li> <li>・人類学における生物性と自然</li> <li>・人類学とオルタナティブ経済論</li> <li>・映像人類学と捕鯨論</li> <li>・ランドスケープ論</li> <li>・管理社会の人類学 ほか</li> </ul>											
<b>【履修要件】</b>											
文化行為論 A を履修していることが望ましい。											
<b>【成績評価の方法・観点及び達成度】</b>											
出席（50％）、授業での発表（50％）											
<b>【教科書】</b>											
授業中に指示する											
<b>【参考書等】</b>											
（参考書） 授業中に紹介する											
----- 文化行為論 B (2)へ続く -----											

文化行為論 B (2)

---

( 関連 URL )

<http://www.mihoishiianthropology.com/>  
<http://www.zinbun.kyoto-u.ac.jp/zinbun/members/ishii.htm>

**[授業外学習 ( 予習・復習 ) 等]**

次回の授業で用いられるテキストを必ず事前に読んで、自分なりの質問やコメントを考えておくこと。

**( その他 ( オフィスアワー等 ) )**

質問等は [mishii\(at\)zinbun.kyoto-u.ac.jp](mailto:mishii@zinbun.kyoto-u.ac.jp) まで。

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。